

シオン通信

大宮シオン・ルーテル教会 礼拝説教集

2006 年 8 月 第 2 号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax : 048-663-0215

<http://www.eotown.com/01church/>

おげんきですか？

大宮シオン・ルーテル教会

梁 熙 梅(やん・ひめ)

一ヶ月の間お元気ですか。長い梅雨も明けて、いつ雨が続けていたのかと思うくらい、よい天気が続いています。けれども、暑い日が続きますと夏ばてしたりして、からだの健康を崩しやすいですから、あまり無理しないように、からだを大事にしていきたいですね。

さて、大宮教会はこの 8 月一ヶ月間の礼拝を教会学校の子もたちと一緒に守る礼拝として企画しています。はじめは子どもたちが大人の礼拝に出席してつまらない思いで帰るのではないかと心配する声もありましたが、子どもを大人に合わせるのではなく、大人が子どもの視点に合わせて礼拝できるように礼拝式文をあらためて作り直しました。合同礼拝式文を作りながら、子どもは大人に考えるべきことを考えさせる力を与えてくれるものだと思えて感じました。これは、牧師室での、こっそりのひとり体験ですが、わたしのこの体験が礼拝に集う大人のみなさんも感じ取ることができて、豊かな礼拝が行われることを祈っています。

また、大宮シオン・ルーテル教会のホームページ (<http://www.eotown.com/01church/>) を新しく作り直しました。今までは手を加えないまま放置してあったのですが、変化のあるものとなるように、深川教会の牧師である白井師の力を借りて立ち上げることができました。管理に怠ることのないようにします。みなさんも関心を持って大宮教会のホームページを覗いてください。そこで感じられたことやご意見など自由に書いていただければと思います。

8 月 6 日からわたしはアペルト(LWF のアジア婦人の部)の関連で韓国へ出張します。韓国の教会の婦人会の皆さんとの交流を通して多くの実りが与えられることを期待しています。

【ワンポイント豆知識】「史上初のファッションデザイナー」

創世記 3 章 21 節には、神さまが動物の皮で服を造り、人間に着せられた記事が載っています。史上初のファッションデザイナーは、神さまでありました！しかも、動物の皮で着物を作るということは、厳しい寒さにも耐えて生きることができることを意味します。

ファッションは人間世界の産物だと思いがちですが、実は神さまの手によって作られたものが初めてであることに、驚きと喜びを感じます。着物を作られる母なる優しい神さまの姿が表現されていることに、わたしたちはなお大きな神さまの愛を感じ取るのではないのでしょうか。ですから、服はただ恥ずかしいところを覆うものだけではなく、人間があらゆる困難や季節の変化に耐えて、生き生きと生きられるためにあるものです。

聖書のみことば

創世記3章8－15節

その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」

2コリント5:11－15節

主に対する畏れを知っているわたしたちは、人々の説得に努めます。わたしたちは、神にはありのままに知られています。わたしは、あなたがたの良心にもありのままに知られたいと思います。わたしたちは、あなたがたにもう一度自己推薦をしようというわけではありません。ただ、内面ではなく、外面を誇っている人々に応じられるように、わたしたちのことを誇る機会をあなたがたに提供しているのです。わたしたちが正気でないとするなら、それは神のためであつたし、正気であるなら、それはあなたがたのためです。なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになります。その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです。

マルコによる福音書 3章20－30節

イエスが家に帰られると、群衆がまた集まって来て、一同は食事をする暇もないほどであった。身内の人たちはイエスのことを聞いて取り押さえに来た。「あの男は気が変になっている」と言われていたからである。エルサレムから下って来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭の力で悪霊を追い出している」と言っていた。そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、たとえを用いて語られた。「どうして、サタンがサタンを追い出せよう。国が内輪で争えば、その国は成り立たない。家が内輪で争えば、その家は成り立たない。同じように、サタンが内輪もめして争えば、立ち行かず、滅びてしまう。また、まず強い人を縛り上げなければ、だれも、その人の家に押し入って、家財道具を奪い取ることはできない。まず縛ってから、その家を略奪するものだ。はっきり言うておく。人の子らが犯す罪やどんな冒涇の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒涇する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」イエスがこう言われたのは、「彼は汚れた霊に取りつかれている」と人々が言っていたからである。

説 教

『どこにいるのか』

今日は第一日課であります旧約聖書からみ言葉の分かち合いをしていきたいと思います。

皆さんも小さい頃隠れん坊をして遊んだ思い出があると思いますが、どんな思い出が残っていますか。わたしは、小さい頃、夜隠れん坊をして遊ぶことが多かったのを覚えています。鬼になるのがとてもいやでした。鬼になったら、隠れている人を探すために暗いところを一人で訪ねていかなきゃ行けない、それがどれだけ怖かったのか、まるでお化けでも出るようなところに隠れている場合が多いですから、そんなところへ見つけに入っていくのがとても怖かったのです。

この頃、我が家は鬼ごっこでよく使われるようになりました。智倫(小3)の友だちが6〜7人も遊びに来ては、一階から二階まで、寝室を除いた家すべてを使って鬼ごっこをするのです。二階の使われていないお風呂場など、彼らにとっては最適な隠れ場でありましょう。一所懸命隠れようとするから、押入れの布団は部屋に落ちてぐちゃぐちゃになったり…飾ってあるものが落ちて転がったり…鬼ごっこが終わった後の家はまるで泥棒でも入ったかのよ

うな状態になります。鬼ごっこが終わってから友だちと一緒に家の片づけをするのですが、しかし、子どもですからいくらがんばったってもと通りにはならないのです。このようなことが何回も続いたために、智倫にはこの一週間の間、友達を家に招くことを禁止されました。

子どもたちが鬼ごっこをしているときを見ていますと、鬼が「もういいかい？」と何度も聞きます。しかし、子どもたちは自分が隠れきったと安心できるまで「ま〜だだよ」と返事をするのです。返事するだけで居場所を知らせていることになることなどまったく気づかずに、安心できるまで「もういいかい？」と聞く鬼の言葉に「ま〜だだよ」を繰り返すのです。

今日の創世記3章8節から始まる物語の中で、鬼ごっこがなされています。人間が神さまと鬼ごっこをしているのです。神さまが鬼で人間が隠れ人です。人間は神さまが絶対に探すことができないように、木の後ろに隠れました。これならもう安全だと思っているところに、神さまが訪れました。園を歩いておられる神さまの足跡が聞こえるのでした。二人はドキドキしながら神さまの歩かれる足跡を聞いています。そのとき、

こんな声が聞こえてきました。「どこにいるのか」、「人よ、どこにいるのか」。鬼が「もういいかい？」と聞くのと同じ感じの言葉です。この言葉に、隠れている二人はじっとして黙って隠れることができず、「ここに、います。あなたが恐ろしくて、隠れています」と、自分たちがいる場所を知らせました。

創世記 3 章は一つの創造物語の後半の部分です。神さまは人間を作り、エデンの園にあらゆる果実など、人間の生活に必要なものを備えて、人間がそれを管理するように仕事を与えました。人間はエデンの園のすべてのものから取って食べてよかったのです。しかし、一つだけ禁じられた神さまからの戒めがありました。つまり、園の中央に植えてある善と悪を知る木からはとって食べてはならないと言う戒めが与えられていました。

ところが、人間の弱さは、神さまの命令を最後まで守ることができませんでした。「～してはならない」と言われるとやりたくなるのが、人間の心理でしょうか。創世記 3 章 6 節には、神さまの戒めで禁じられている木の実、人間の目から見るときに、「いかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるようにそそのかしていた」と記されています。それらしく見えるもの、目を引き付けるほど美しいもの、このようなものに人間の欲は追い立てられるの

でしょう。人類最初の人間も、同じく弱さを抱えている者でありました。それらしきものに人の貪欲は導かれ、自分たちの目にそれらしく見えていたものを優先していくがために、結局二人は神さまの戒めを破っていくのです。食べてはならないと禁じられた木の実を取って食べたのです。食べたとたん自分たちが裸であることが知らされ、それゆえ、二人は神さまと鬼ごっこをしなければならない状況にあるわけなのです。何しろ、自分たちが今裸で、裸である自分たちの姿が恥ずかしくて、神さまの前に自分たちの恥ずかしい姿を見せるのが恐ろしくて隠れざるを得なかったのです。

ある人は、エデンの園の中央に植えられている木、つまり善と悪を知る木のことを、「公なもの」にたとえていました。面白い解釈だと思いました。一人の個人が私有化してはならないもの、誰のものでもなければ、誰のものでもあるもの。一人が所有できるものではなく、人間に必要なものなんだけれども、しかしそれはみんなのものであるから、個人的に所有してはならないもの。神さまのものです。神さまのものを人間が自分のものにしようとしたときに、その人間の中にはもはや戒めを与えられた神の存在はいなくなり、自分が神になって、神の座に座って、与えられた神さまの戒めを支配し、神さまが造られたこの世の被造物すべてを支配しようとしていくのです。

この世に起きている戦争はそこから来るものでありますし、わたしたちは、直接その戦争とはかかわりが無いとしても、しかし、自分たちが生きるところにおいて、家族や隣人のものを奪い取って生きているなら、小さな戦争を起こしている同じ人間です。周りが自分の思い通りに動かなければ気がすまない、何とかして自分の思いを通していこうとする、大きい声で意見を言えない隣人の人権を無視したり、自己判断を優先して、弱い他者を排除していこうとする。

これが、善と悪を知る木の実を見て思う人類初の人間の姿であり、また、わたしたちの姿ではないでしょうか。

そんな二人が、今、自分たちが犯したことの責任を取ることもできないまま、木の後ろに隠れて、途方にくれていたのです。

「どこにいるのか」、「人よ、あなたは今どこにいるのか」。

隠れている二人に向けられたこの問いかけ。神さまが二人の居場所がわからなくて聞いている問いでしょうか。そうではありません。「どこにいるのか」と尋ねるこの問いは、戒めを破った二人が、どうすればいいのか状況収集ができないまま途方にくれているところに的中した問いかけでありました。自分たちを造られた創造主のこの問いかけに、二人は膝を拙くしかありませんでした。戒めを犯したこと、採って

食べてはならないと禁じられた木から採って食べたことを告白せざるを得ないのです。いいえ、それは強制ではなく、二人が罪から解放されるために、神さまは二人に告白するチャンスをくださったのです。

ですから、神さまのこの問いかけ、「どこにいるのか」という問いかけは、二人にとって大きな、深い意味をもたらす問いかけでありました。「どこにいるのか」ではなく、最初から責めたって良かったのです。ご自分の戒めを犯したのですから、「どうしてそんなことをしたのか？あなたがたは、わたしを裏切ったんだね！」と、罪を真正面から告発していてもよかったのです。

しかし、神さまはそうではありませんでした。「どこにいるのか」。今、自分たちがいるところがどこなのか、自分の言葉で説明しなさい。自分たちが何をどのようにしたのか、やったことをもう一度振り返りなさい。自分たちがやってしまったことの大きさ、深さ、その重大さがどれだけのものなのか、もう一度考えてみなさい。

ですから、むしろ「どこにいるのか」という神さまのこの問いかけは、責める言葉よりも二人にとっては重い言葉であったのでしょうか。しかし、神さまは上から命令する神と下で服従する人間という形で関わることを望まない方です。

あくまでも二人の人格を認められる方として、人格的なかわりをしてもらえるのです。そして、二人が自分たちの犯したことに対しての責任をしっかりと担っていけるように、自分たちの力で考えさせようとしておられるのです。ですから、この問いかけは、この問いかけこそ、最終的にはゆるしの言葉にほかなりません。自分の犯したことを他者から責められるのではなく、自分の言葉で告白できるということ、それによって自分が今どこに、どの時点に立っているのかが見える。どれだけ神さまから外れて、遠くに離れているのか、わがまま歩いていたのか、自分自身に知らされるのです。この気づきは、その時点から、神さまのいるところへ戻っていくチャンスになるのです。

自分の言葉で、自分が犯したことを言えるチャンスが神さまによって与えられていることを、もしかしたらわたしたちは忘れていてのではないのでしょうか。それだけではなく、神さまがくださっている赦しの理解さえ、間違っているのではないかと思うのです。

神さまは、人類初の二人の人間が犯した罪の告白を聞かれ、そして、二人が担うべきことを命じられた後、二人に動物の皮で服を作って着せられました。罪を犯したまま、しかし、犯した罪を背負ったままいつまでも罪人のよ

うに生きるようにではなく、罪を告白する機会を与え、二人の居場所を確認させてくださったのです。この神さまは、二人の恥ずかしいところを隠すための丈夫な服をお造りになるのです。ご自分の位置にまで挑戦された方が、ご自分の座を挑んできた二人のために、二人の最も恥ずかしいところを、直接造られたもので隠してくださるのです。これこそ神さまのはかり知れない愛でありますし、神さまの深いゆるしでありますし、罪人である人間をありのまま受け入れてくださる、母なる創造主の愛でありましょう。

今日の福音書はベルゼブル論争と題が付けられているところです。イエスさまが悪霊を追い出す力は、聖霊によるものではなく、悪霊、ベルゼブルの頭の力を借りているものだ、と、律法学者をはじめ、家族でさえそう思っていました。これに対してイエスさまは「人の子らが犯す罪やどんな冒涇の言葉も、すべて赦される。しかし、聖霊を冒涇する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。」と厳しく言われます。

聖霊の働きを聖霊の働きとして受け止めることができないということに対してイエスさまは厳しく言われるのです。つまり、神の救いの業が誤った形で理解されているということ。もっと申しますと、神の救いの業による赦しの理解が間違った形で理解されているという

ことは赦されないんだということ。あの人類初の人間に「どこにいるのか」と問いかけ、告白する二人に服を造って着せられ、どこへいっても恥ずかしい思いで生きるのではない、自分らしく、力強く生き生きと生きるんだと勇気付けてくださった神さまの愛が、ゆるしが、神さまの本来の救いの業が、今や誤った形で理解されていること、これが聖霊の働きを邪魔することであること。イエスさまが厳しく言われるところ、そして、イエスさまがご自分に従う群れに与えられた戒め「わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し愛さない」という戒めが、聖霊を邪魔する働きをする者たちへ向かって問われているのではないのでしょうか。

イエスさまに従う群れである私たちの教会では、神さまのゆるしの本来のあり方が、果たして守られているのでしょうか。納得のいくことに頷くことは、教会の中でなくても出来ることです。納得のいかないことに否をあげることも、教会の中でなくても出来ることです。キリストの十字架が示してくださった神さまの赦し、その愛は、納得の行かないものに従う愛でありました。納得のいかないものにイエスさまは否を打つこともなく、従ったのです。その道に従う群れがこのキリストのからだなる教会です。

人間をお造りになり、造られた人間

に、ご自分の位置にまで挑戦されたにも関わらず、そんな罪深い人間相手のために服を造って着せられ、恥ずかしいところを隠してくださる愛、その愛が実現されたのがキリストの十字架なのです。聖霊を邪魔する働き、つまり、この十字架の愛を否定する働きそのものを、今日、イエスさまは厳しく指摘されておられるのです。聖霊の働きは聖霊の働きとして受け止めるということ。自分の理解の中では納得のいかない相手であっても、その相手の恥ずかしいところを隠す働きを、主は今日私たちに、私たちの教会に勧めておられるのです。

赦されたつもりで生きるのではない。赦された者として生きるのだ。自分らしく、力強く、どんな状況の中でも恥ずかしい思いで生きるのではない。わたしが造った服を着せるから、わたしの完璧な愛、十字架の愛があなたを救ったから、十字架の愛があなたを包んでいるから、あなたはあなたらしく、十字架の愛に生きるのだ。そして、あなたと向き合う他者を、わたしがあなたにしたのと同じく受け入れ、恥ずかしいところを着せてあげ、ともに生きるのだ。このように語りかけておられる主は今私たちをご自分の十字架の赦しへと招いておられるのです。

【礼拝予定】

【主日礼拝】 毎週日曜日 朝 10 時 30 分～

8月6日(日) 平和の主日

聖書：ミカ4:1－5・エフェソ2:13-18・ヨハネ15:9-12

主題：主のみ名によって歩む 讃美歌 150(教会)/371(賛美歌 21)/34(子どもさんびか)

8月13日(日) 聖霊降臨後第10主日

聖書：アモス7:10－15・エフェソ1:3－14・マルコ6:6b-13

主題：主の山に備えあり 讃美歌 187(教会)/512(賛美歌 21)/119(子どもさんびか)

8月20日(日) 聖霊降臨後第11主日

聖書：エレミヤ23:1－6・エフェソ2:11-22・マルコ6:30-44

主題：主の山に備えありその二 讃美歌 40(子どもさんびか)/238(教会)/394(教会)

8月27日(日) 聖霊降臨後第12主日

聖書：ゼファニヤ3:18-20・エフェソ4:1-16・マルコ6:45-52

主題：嵐の中を来られる主 讃美歌 152(教会)/114(子どもさんびか)/409(教会)

(説教主題は今のところの予定です。変更になる場合もあります。)

【その他の集会】 第三日曜日 12時30分～ 聖書をやさしく学ぶ会

9月より毎週水曜日午後7時より「水曜礼拝」スタート

随時(希望にあわせて)キリスト教入門講座・面談など

毎週水曜日 10:30 から行っていた女性の視点を生かした聖書の学びは、日程を調整することになりました。確かな日程がわかる次第お伝えいたします。

どの集会もどなたでもご参加いただけます。お待ちしております。
面談や訪問・お祈りを希望される方も遠慮なくご連絡くださいね。

でんわ 048-663-0215/090-6872-6704

Eメール：himei-y@oregano.ocn.ne.jp